自然言語処理 Vol.2 No.1 編集後記

「自然言語処理」の創刊号はいかがだったでしょうか. 創刊号の編集後記に報告しましたように, 表紙は九州芸術工科大学の伊原久裕先生にデザインしていただきましたが, 言語処理学会 (The Association for Natural Language Processing) のロゴも同じく伊原先生の作です. 表紙の色は PANTONE WARM GRAY 4C というそうです.

当初, 「自然言語処理」としては, 予算や人手の関係で研究会の予稿集程度のものを予定していたのですが, それと比べると立派なものが出来上がったのではないかと思っています. LaTeX による論文スタイルの統一, 高品質の印字出力, 通常の製版印刷などにより, 立派な会誌となりました. これらは, 関係者のご協力によるものですが, 立派になった分, 研究会の予稿集よりもコスト高になっています. しかし, 編集作業をボランティアで行なっているために, 何とかこのような品質の会誌を発行することが可能になっています. 他の学会のように出版社あるいは専門の職員に頼って発行すると不可能であったと思います. 学会費が少し高いとお思いの会員もおられるかとも思いますが, 会費だけで運営している現在, 予算に比して, かなりの出来ではないかと思っています. 後は, 立派な論文がどんどん掲載されて, 「自然言語処理」の名前が高まっていくことが望まれるところです.

言語処理学会の発展のためにも, ゆとりのある会誌発行のためにも, 学会員を増やし, 「自然言語処理」の部数を増やしたいと思っています. それで, 会員の皆様のところの図書館などに「自然言語処理」の購読を呼びかけていただければと思っています. 創刊号は, 会員数よりも 500 部ほど多く作りましたので, 購読をして頂けそうなところなどに進呈します.

この号で, 次号以降に掲載予定の論文が紹介できればと思っていますが, 学会がスタートして間もないこともあって採録決定の論文数が十分でないために, まだ予告ができません. ご承知のとおり, 「自然言語処理」の特徴は, 迅速・公平な査読をする, 論文の長さに制限がない, 掲載料が格安であるという点にあります. より充実した会誌にするために, 皆様のさらなる投稿をお願いいたします.

島津 明 (NTT)